若者

やり甲斐のある留学生活を過しながら感じたこと

金　　成　　垠*

1980年4月大阪大学工学部建築工学科6講座へ研究のためにまいりました金です．今から丁度4年前，私は韓国の第2番目の都市，釜山に所在してある慶南工業専門大学へ在職中でありました．当時，大学で研究しながら常に専攻分野に対してもっと深い研究と実験をやりたかったたですが，実験器機や文献調査をするのに充分な資料や器機がなかったので自分が考えた通りなかなか研究が進まなかったのです．こんな状態で研究することはとても無理なので外国へ行って勉強する決心を致しました．初めはどこの国へ行って勉強するのが一番いいのかいろいろ考えましたが，地理的におよび技術的に見るとやっぱり日本国の選択が一番よく似合うと思いました．特に日本の技術および施設規模が韓国事情によく適用するのに無理がないと判断したからです．そういうわけで五十嵐研究室で研究生活を送りました．

最初の研究はよくわからない研究室の雰囲気の中でいっしょうけんめい努力するのにたちまちのうちに一年の歳月が立ちました．その反面留学生活の淋しさおよび郷愁を感じてたまらない場合もたまにありました．今，振り返って見ると留学生活の初めの一年間はたれかが暖かく指導してくれる人がおったら淋しさを解決することができる一つの方法だと思っております．

留学生2年目，私は後期課程に入学してから本格的な研究が始まりました．毎日夜遅くまで研究が続いてますが，あるときは厳しく指導を受ける場合もありました．そのときは憎い感情もたまにありましたが今頃考えて見ると全然そういう気持が無くなってしまったことは本当に有難いことだと思っているからでしょう。

*金　成垠 (Seong Eun KIM)，大阪大学，工学部建築工学科，五十嵐研究室，工博，建築構造

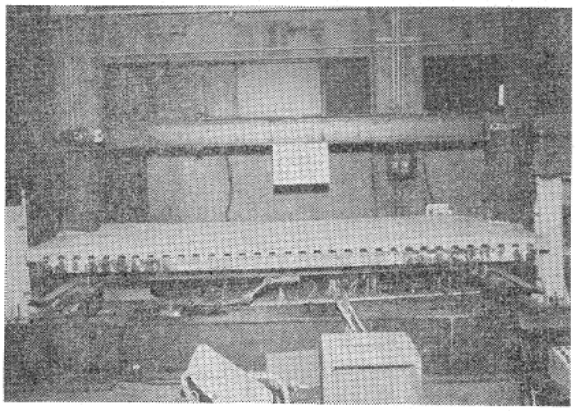

写真1　合成梁分解架構の弾塑性履歴性状に関する実験（CB5試験体；昭和57年度）

留学生3年目のとき，私がいつも望んでいる合成梁の実験が始まりました．私としては初めての実験ですから最初から最後まで新しく，このような実験こそ学問とつながることではないかと思いました．やはり実験時は肉体的に疲れますが一つ一つ身に付けて行くのが非常に楽しかったんです．特に実験中，膨大なデータに驚きました．なお，この膨大なデータがコンピュータによって速くデータ整理ができるのはなによりも幸いだと思います．もし，むかしのように，人の手によって整理するとだいぶん長い時間が要求され，現在の研究が延長されなければならない状態になったかもしれません．とにかく実験するのにコンピュータの登場は本当にありがたいと思いました．

次は，日本と韓国の大学の研究生活の差異点としては，学部4学年になってから学生達が各専攻別に講座へ配置されて勉強することです．韓国では4学年卒業するまで履修学点と卒業設計を完成するとともに卒業することができます．しかし，日本では“卒業論文”という大きな課題があってこれが大学院への研究と直接つながることができるから非常に理想的な教育方

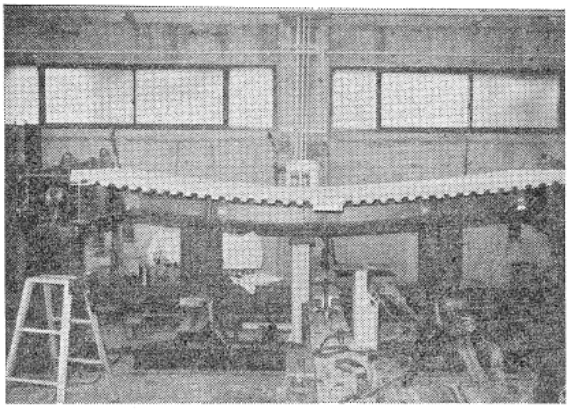

写真2　合成梁の弾性剛性と終局曲げ耐力に関する実験（ＣＢ５−ＤＶ試験体；昭和58年度）

法の一つであると思いました．もっと印象深いのは区分されている各講座の中で各グループ別に分れてゼミを夜遅くまでやってる雰囲気でした．とにかく留学中いろいろな研究方法を身につけました．それから，また機会が与えられればもう一度実験をやりたい気持が懇切しております．

次は，初めに日本へ来てから肌で直接感じたことか困ったことを書いて見ます．その一番目が夏の気候でした．大阪は私が住んでいた釜山とは大体同じですが，夏は非常にむしあついので本当に苦しいでした．そういう意味で日本人は毎日ふろうをすべき理由の一つだと感じました．冬はわりとむこうよりちょっと暖かくて住みやすいです．２番目が食べ物です．むこうは一般にからいものが多いのに比べて日本はあまいものが多くて，あまり口に合わなかったんです．しかし，それも約４年間が経った今頃はずいぶんなれて何でも載きますから心配はないが，まだ今までいただけないのが一つあります．それがなにかと言いますと“梅干”という酸ばいものです．とにかくそれが今までもなかなかいただけないです．いつかかわからないがゆくゆくは好きになれるでしょう．３番目が“会話”です．これは現在もそう思ってますが，はじめは少なくとも１年以上住めばぺらぺらになると思いましたが思った通りうまくいけないので，すこし息苦しくなりました．そうするといったいその原因はなんでしょうかと思い出して見るといろいろの原因中，“大阪弁”という特有な言葉ではないかと思いました．たとえば「なんぼ」とか「しんどい」とか「ほんまに」，「けえへん」，「まっさら」など，たくさんの言葉が会話中にまじりこんではいると意味がよくわからなくなる場合があります．それは外国人だからどうしようもないかもしれませんが韓国へ帰っても今までおぼえた日本語をわすれられないようにいっそう努力すべきだといつも思っております．

次は，４年間の生活中日本人と留学生との間に感じたことを私なりにすこし述べたいです．人間というのは皆個性が違うようにその考え方もさまざまであります．特に留学生にとってはなおさらのこと，ちょっとしたことでも誤解されやすく，お互いに気を使いがちになります．そのうえ，表現力が幼稚であるために，また，言いたいことがうまく言えないためにも話した内容が訛伝されることもあり，とんでもない事態をよぶ結果にもなりかねないです．自分はそんなに言うつもりじゃなくても相手にその様に解釈された場合に，留学生たちは一番戸惑うとともに外国での生活のむずかしさをしみじみ感じるのであります．

国民性と習慣は勿論のこと，常識までも違う人間どうしが，いっしょに暮らすのだから誤解が生じるのがむしろ当たり前のことかも知れませんが問題は互いがどのくらい相手を理解し，いたわりあうかにあります．長いこと生活すればある程度は相手に合わせ，とけ込むこともできるだろうが，個人差も性格の違いもあるので，皆がそうなるとは限らないです．ここに外国人の扱いのむずかしさと，外国での生活のむずかしさがあるのでしょう．

現在も留学生の中にはノイローゼぎみになっている人もたまに見ております．たまりかねる淋しさも仕事上の行きづまりもあったでしょう．またいまの環境に適応できなかった性格上の問題も，対人関係のつまずきもあったに違いないです．それが自分のセイじゃなく，不理解な日本人によってこのような結果になった場合には，問題はもっとややこしくなるわけであります．“井蛙”という言葉があるように，井戸の中では限られた範囲しか見えないです．韓国

で日本に対して考えていたことと，日本で暮し，また日本人と接しながら感じることはだいぶん違いがあります．日本がいろいろな面において進んでいることは認めながらも，われら30代以上は日本人に対して良くない先入感をもって育てられたことは事実であります．しかし私が日本で研究しながら一人一人に接して見ると“悪い人”だなと感じたことはいまだにないです．礼儀正しく，相手の立場にたって考えてくれる人々が多いです．そうしたならば，われわれも日本に対して考えなおす時期ではなかろうかと思います．正しい目でながめて正しく認識することが我が国の将来の為，有益であろうと考えられます．

おわりに，五十嵐研究室で研究する機会に恵まれたことは非常に幸運であったと感じます．なお，私の研究を進めるにあたり，終始懇切な御指導と御鞭撻を賜りました五十嵐定義教授および井上一朗先生に衷心の謝意を表します．また，この欄への寄稿の機会を与えていただきました楢崎正也教授に感謝いたします．